「律法の完成者」
マタイによる福音書 5 章 17－20 節

「言っておくが、あなたがたの義が律法学者やファリサイ派の人々の義にまさっていなければ、あなたがたは決して天の国に入ることができない」（20 節）とイエスさまは言われました。当時、律法学者やファリサイ派の人々は、律法の教えに精通し、それを完璧に守っている者の代表と思われていました。ですから、律法学者やファリサイ派の人々以上の正しいことをしなければならないと言われた人々は、いったいどうすれば良いのだろうかと思ったことでしょう。しかし、後にイエスさまは、律法学者やファリサイ派たちを非難もしておられます。ですから、律法はただ守ればいいというものではありません。実際、彼らは律法に書かれている細かい規定を忠実に果たそうとはしましたが、律法の最も中心となるものをないがしろにしてしまっていたのです。

そもそも、律法はどうして与えられたのでしょうか。神さまは、かつてエジプトで奴隷の状態にあったイスラエルの民を救い出してくださいました。そして、シナイ山において神さまは、イスラエルの民と契約を結び、彼らのことを「わたしの宝」と宣言してくださったのです。でも、イスラエルの民は、神さまから「わたしの宝」と言われるような民族だったのでしょうか。決してそうではありませんでした。イスラエルの民は、他のどの民よりも貧弱であり、しかも主に背き続けてきたのです。そういう彼らを、主なる神さまがただ愛のゆえに選び、救い出し、ご自分の宝の民としてくださったのです。律法の根底には、この神さまの愛が流れているのです。ですから律法は、救われるための条件を語っているのではありません。そうではなくて、律法は、この救いの恵みを経験したイスラエルの民が、神さまの愛に応えてどのように生きていくべきなのかを指し示す道しるべとして与えられたのです。けれども、時が経つにつれて、律法を守ることによって自らの力で救いを勝ち取っていくという誤った掟の受け止め方が浸透していったのです。それゆえイエスさまは、律法の本来あるべき姿を完成させるために来られたのです。

では、その律法の最も大切な本質とは何でしょうか。別の箇所でイエスさまは、「『心を尽くし、精神を尽くし、思いを尽くして、あなたの神である主を愛しなさい。』これが最も重要な第一の掟である。第二も、これと同じように重要である。『隣人を自分のように愛しなさい。』律法全体と預言者は、この二つの掟に基づいている」（マタイ 22:37-40）と答えられました。この「神を愛し、隣人を愛する」という愛の原理こそが、律法学者やファリサイ派がないがしろにしていた律法の中心にある原理です。律法は本来、私たちを「神を愛し、隣人を愛する」ことへ導くための愛の実践を教えているものなのです。そしてイエスさまは、その愛という律法の本質を改めて弟子たちにお示しになられたのです。しかも、ただ言葉で語るだけでなく、キリストの十字架において律法が持っていた愛を実現してくださったのです。その意味において、イエス・キリストこそが「真の律法の完成者」なのです。

私たちは、誰もが皆、神さまに背いてばかりいる罪人です。自分の力で律法を満たして完成させる事も、律法学者やファリサイ派にまさる義を獲得することも出来ません。それは、ただ主イエス・キリストが私たちに代わって、私たちの罪を贖う正しい行いを成し遂げてくださることによって与えられる「キリストの義」です。このキリストの愛の義に結ばれて、このお方が成し遂

げてくださった「律法学者にまさるキリストの義」をいただくときに、私たちは天の国の民となる資格を与えられるのです。

そのようにキリストを信じる信仰によってキリストの義を頂いている私たちは、ではもう自分では何もしなくても良いのでしょうか。決してそんなことはありません。イエス・キリストが私たちに与えてくださった義とは、十字架によって獲得してくださった命がけの義です。そしてキリストはその命の代償を、私たちに無償で与えてくださったのです。私たちはキリストの愛によって義とされたのです。ですから、私たちは、キリストの愛に救われた者として、その愛に答えて生きたいと願い、そして自らもキリストのように神を愛し、隣人を愛する者でありたいと願うようになるのです。

私たちに求められているのは、この主イエス・キリストの十字架と復活によって実現した神さまの恵みによって生きることです。律法学者やファリサイ派の人々は、自分が律法をどれだけしっかりと忠実に守っているか、ということを自分の救いの拠り所としていました。つまり、自分の義、自分の正しさを立てようとしているのです。しかし、主イエス・キリストを信じる信仰者は、そのような自分の義を拠り所として生きるのではないのです。私たちを支えている義は、主イエス・キリストの十字架と復活によって神さまが与えて下さった義です。それは、人間が努力してうち立てるどんな義にもまさる神の義です。その神の義をいただき、それによって生かされ、支えられて歩むことこそ、律法学者やファリサイ派の人々の義にまさる、イエス・キリストを信じる信仰者の義なる生活です。